

令和 2 年 6 月 26 日現在

機関番号：32101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K17315

研究課題名(和文) 両価的な対人関係の影響下における夫婦ストレスモデルの構築

研究課題名(英文) Developing a Model of Marital Stress in Ambivalent Interpersonal Relationships

研究代表者

黒澤 泰 (Kurosawa, Tai)

茨城キリスト教大学・生活科学部・講師

研究者番号：00723694

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：夫婦関係などの親密な関係においては、パートナーとの関係に対してストレスを感じるとともに、そのパートナーからサポートも受け取る。本研究では、このような関係を両価的な対人関係と定義し、その影響を一連の研究を通して検討した。夫婦を対象としたオンライン調査と郵送調査を通じ、1) カップル用多側面ストレス測定尺度の日本語版(MSQ-J)を作成したこと、2) これまで焦点が当てられてこなかった夫婦間に発生するネガティブなライフイベントの構造や要因を明らかにしたこと、3) 両価的な関係の個人内/対人間の影響過程を検討したこと、以上三点が本研究の成果である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

一連の研究の中で、親密な関係の内外に発生するストレスを測定する尺度であるMSQの日本語版を開発した。MSQは世界中で用いられており、日本語版を開発したことにより、夫婦とストレスに関連する国際比較研究やネガティブライフイベントのメカニズムのさらなる解明が可能になる。また、結婚満足度と人生満足度に異なる要因が影響を与えるということが示唆された。この知見は夫婦カウンセリングなどの実践場面に活用できると考えられる。さらに、本研究ではオンライン調査と郵送調査という異なる手法を組合せ、二つの調査に共通した頑健な知見を紹介できた。

研究成果の概要(英文)：People feel stress in the relationship with their partners and also receive support from partners in intimate relationships such as marital relationships. This relationship was defined as an ambivalent interpersonal relationship, and its impact was investigated in two studies of couples conducted through an online and a mail survey. As a result of these studies, the Japanese version of the Multidimensional Stress Questionnaire for Couples (MSQ-J) was developed. In addition, the structure of adverse marital life events within couples was elucidated. Moreover, the effect of an ambivalent relationship on marital satisfaction and life satisfaction was clarified from the perspectives of intrapersonal and interpersonal relationships.

研究分野：家族心理学

キーワード：夫婦 両価的な対人関係 関係内ストレス 関係外ストレス 関係内サポート カップル用多側面ストレス測定尺度 子育て期 ストレス

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

夫と妻を基本として構成される夫婦関係は、我々のライフステージの中で、もっとも重要な位置づけを占める人間関係である。これまで、夫婦関係は、発達心理学や社会心理学などの基礎研究(柏木・平木、2014) また、家族療法やカップルカウンセリングなどの臨床心理学実践(中釜、2008)において重要視されてきた。

しかしながら、夫婦は単体として存在しているわけではなく、それぞれが働く職場や地域・血縁ネットワークなど、当該の夫婦をとりまく様々な対人関係とともに存在している。そのような観点で、過去の国内外の研究を総覧すると、「夫婦のみ」に焦点を当てた研究が数多く、いわば社会的文脈と切り離された形で夫婦関係の検討がなされてきた。このように社会的文脈から切り離された夫婦研究が、現実の家族・夫婦問題の解明や実際の臨床実践においてどの程度役に立つかを考えた時、その効果は限定的であるといえる。

また、親密な関係性における影響に関して、パートナーに対して感じるストレス、もしくは、パートナーから受けるサポートというどちらかの側面に注目した研究が多いという点も夫婦を取り巻く現実の複雑さを捉えるうえでの課題としてあげられる。

### 2. 研究の目的

(1)本研究は、現実の複雑さを捉えるため、夫婦内外の人間関係の諸問題を含めた夫婦ストレスモデルを確立することを目的とした。まず、夫婦が抱えうるストレス源を多側面から測定するにあたり、国外研究と対応する形で使用されている日本語の尺度は存在しないため、多側面からのストレスを測定する尺度の作成を試みた(研究 )。また、親密な人間関係は、相手から助けられるなどのサポートの側面と相手との葛藤などストレスの側面を備えた両価的なものであるともいえる。この親密な関係における両価的な対人関係の両側面を組み入れたモデルを構築することを試みた(研究 )。

(2)研究 は、夫婦間のストレスを測る尺度の一つである Multidimensional Stress Questionnaire for Couples (以下、MSQ)の日本語版の作成を目的とした。この尺度は、夫婦関係のような親密な関係において発生する困難を1)発生場所(喧嘩など関係内から発生するものと職場での叱責など関係外から持ち込まれるもの、2)種類(生活習慣の違いなどの日常的に経験するものと失業などの突発的に起こるもの、3)期間(中～長期間続く慢性的なものとは短期間続く急性的なもの)の3つの側面によって測定する尺度である。

具体的には、原版を研究責任者が翻訳した暫定版 MSQ を用い、既婚男女を対象にしたオンライン調査を二度(第一回調査の一月後に、第二回調査)行い、そのデータを統計的に分析することで日本語版 MSQ の作成を試みた。

(3)研究 は、親密な関係における両価的な対人関係の影響とストレス対処の二つの側面から家族ストレスモデルの構築を試みた。親密な関係における対人的な相互作用に関しては、夫婦内に発生する関係内ストレス(Internal Stressor)と関係内サポート(Relational Support)の二つの側面を、夫婦間に発生する困難に対するストレス対処に関しては関係焦点型コーピングを用い、結婚満足度と人生満足度に与える影響の解明を試みた。

具体的には、茨城県内の保育園・幼稚園に通う、未就学の子どもを持ち、調査協力の同意が得られた夫婦を調査対象者とし郵送調査を行った。

### 3. 研究の方法

(1)研究 :株式会社 U'eyes Design 社の、一般会員モニターのうち、研究対象者の条件として Merz et al. (2014)を参考に、20歳~45歳(均等ではなく自然発生での割付)、婚姻歴が一年以上あること(婚姻期間中ずっと同居)という条件を設定したオンライン調査を行った。質問紙は、関係内ストレス、情緒不安定性、精神的健康度、結婚満足度、精神的健康度、身体的疲労度等の尺度から構成された。

日本語版カップル用多側面ストレス尺度を目的とした調査は2017年に行われ、第一回調査の一月後に第一回調査への調査協力者に対して第二回調査を行った。結果、既婚者600名(夫300名、妻300名)のデータを得た。このうち、一律回答などがなかった592名のデータを分析対象とした。

(2)研究 :コミュニティサンプルを対象として選択し、茨城県内の保育園・幼稚園に通う、未就学の子どもを持ち、調査協力の同意が得られた夫婦を調査対象者として選定した。質問紙は、関係内ストレス、関係内サポート、関係焦点型コーピング(積極的関係維持/我慢歩的・関係維持)結婚満足度、人生満足度の尺度から構成された。

調査は2019年10月~12月にかけて実施した。関東地方の2つの幼稚園と2つの認定こども園の協力を得て、362組(A園72組、B園150組、C園120組、D園20組、その他研究者の知りあい4組)に質問紙を配布した。なお、協力を得た園に依頼の際、複数の園に子どもを通わせている同一の保護者がいないことについて確認を行った。配布した質問紙セットの中には、調査協力への依頼状、個人情報保護するための貼り直しできない個人情報保護シール(夫用、妻用)、直接返送するための返信用封筒(夫用、妻用)を同封した。

#### 4. 研究成果

(1) 研究 : 日本語版カップル用多側面ストレス測定尺度(MSQ-J)の妥当化を行った。分析の結果、MSQ-J は、先行研究と同様の二因子構造(関係内ストレスと関係外ストレス)を示した。また、一月後の再検査の結果から、MSQ-Jの得点は安定していることが明らかとなった。

関係内ストレスは、高い情緒不安定性、低い結婚満足度、低い精神的健康度との関連を示した。また、関係内ストレスは、夫婦内におけるネガティブなライフイベント(e.g. 関係内における浮気・不倫)経験を予測していた。一方、関係外ストレスは、夫と妻で異なる構造を示し、また、先行研究の知見とも一致しなかった。このことは、夫婦を取り巻く環境は、それぞれが置かれた状況に左右されるものであること、及び、関係外ストレスを検討するにあたり、それぞれが置かれた“文脈”を考慮する必要性を示しているものといえよう。

(2) 研究 : 社会経済的要因から MSQ-J の特徴を明らかにする分析を行った結果、子どもの存在が MSQ-J の得点を高めることが明らかになった。加えて、家庭内暴力や浮気・不倫などの夫婦のネガティブなライフイベントが重複している可能性を示したことなど、MSQ を用いた先行研究において焦点が当てられていなかった領域についての研究知見を蓄積した。

(3) 研究 : ストレス源を多側面から測定することができる MSQ は、ヨーロッパ(Merz et al., 2014)で広く用いられており、日本語版の作成により、MSQ を用いた国際比較研究が可能になる。次に、MSQ を用いることにより、ストレス源のどの側面がどのような心理的影響をもたらすのかということを示すことができる。また、MSQ は、法定婚の夫婦にとどまらない親密な二者関係(e.g. 同性カップル)に焦点を当てた応用的な利用もすることが可能である。

(4) 研究 : 本研究を立案した段階では、夫婦関係内外の両面的な対人関係(ネガティブ、及び、ポジティブ)の影響に注目する予定であったが、関係外ストレスが不安定であることを実証的知見に基づき指摘した。

(5) 研究 : 関係内ストレスは関係内サポートと有意な負の相関を示した。関係の中で相手に対してストレスを感じること(関係内ストレス)と相手からのサポートを感じること(関係内サポート)は相反的な関係であることが示されたと言えよう。相手に感じるストレスは対人関係のネガティブな側面であり、相手から受け取るサポートは対人関係のポジティブな側面である。これら構成概念の性質的に、相手に対してストレスを感じることで相手からサポートを受け取ることは負の相関関係を示すことが予測されていたが、先行研究では実証的にこの視点が裏付けられてはいなかった(e.g. Merz et al., 2014; 丸山・遠矢, 2016)。本研究は、実証的にこれら二つの構成概念の関係を裏付けることができたといえよう。

(6) 研究 : 結婚満足度と人生満足度という二つの側面に対して、両面的な対人関係の異なる側面が影響を与えていることを明らかにした。具体的にいうと、結婚満足度に対しては関係の中で感じるサポート(関係内サポート)が正の影響を示し、人生満足度には関係の中で感じるストレスが負の影響を与えることが示された。この知見は夫婦カウンセリングなどの実践場面に活用できると考えられる。

(7) 研究 + 研究 : 本研究では、オンライン調査と郵送調査をともに行い、二種類の調査方法において共通する知見(e.g. 関係内ストレスと関係満足度の負の相関関係)と異なる知見(ネガティブなライフイベントの報告頻度)を見いだした。

#### < 引用文献 >

Bodenmann, G. (2007). Multidimensionaler Stressfragebogen für Paare (MDSP). Unpublished scale, University of Zurich, Switzerland.

柏木 恵子・平木 典子(2014)日本の夫婦: パートナーとやっていく幸せと葛藤. 金子書房.

丸山沙紀, & 遠矢浩一. (2016). 発達の違いを有する子どもをもつ母親の育児自己効力感にソーシャルサポートが及ぼす影響. 九州大学総合臨床心理研究, 7, 17-26.

中釜洋子(2008). 家族のための心理援助. 金剛出版.

Merz, C.A., Meuwly, N., Randall, A.K., & Bodenmann, G. (2014). Engaging in dyadic coping: Buffering the impact of everyday stress on prospective relationship satisfaction. *Family Science*, 5, 30-37.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Kurosawa, Tai / Yokotani, Kenji	4. 巻 9
2. 論文標題 Validation of the Japanese Version of the Multidimensional Stress Questionnaire for Couples: Factor Structure, Validity and Reliability	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Relationships Research	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/jrr.2018.15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒澤 泰	4. 巻 50
2. 論文標題 夫婦間ストレス場面におけるコーピングのジョイントプロセス：ジョイント・インタビュー法を用いて	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 茨城キリスト教大学紀要	6. 最初と最後の頁 189-201
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Kurosawa, Tai
2. 発表標題 What predicts the experience of unfaithfulness in Japanese couple?
3. 学会等名 American Psychological Association（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒澤 泰
2. 発表標題 ネガティブな夫婦ライフイベントの多重構造：日本語版MSQを用いた検討
3. 学会等名 日本離婚・再婚家族と子ども研究学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒澤 泰
2. 発表標題 親密な関係の視点からストレスへの対処を考える
3. 学会等名 広島大学高等教育研究開発センター第7回公開研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒澤 泰
2. 発表標題 夫婦にとっての“ふつう”のストレス
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 黒澤 泰
2. 発表標題 日本語版夫婦用多側面ストレス尺度(MSQ-J)作成の試み：関係内と関係外という視点から
3. 学会等名 日本発達心理学会第29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kurosawa, T.
2. 発表標題 Joint Process of Coping with Marital Conflict
3. 学会等名 International Association for Relationships Research (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 黒澤 泰
2. 発表標題 不実と年収のリンク
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 黒澤泰（宇都宮博・神谷哲司. 編著）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 312
3. 書名 夫と妻の生涯発達心理学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>研究代表者のホームページ  <a href="http://tai9630.wixsite.com/website-of-tai">http://tai9630.wixsite.com/website-of-tai</a></p>
--

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----